

「国を超えて感じた人々の温かさ」

明見中学校 城定 莉乃

私は「自己成長」と「国際交流」という2つの目標を掲げ、姉妹都市派遣事業に参加しました。

自己成長の面では、特に「英語能力の向上」と「人間的な成長」を目指しました。初めてホストファミリーと対面した際、彼らの質問が「単語」でしか聞き取れず、言葉の壁の大きさを痛感しました。不安を抱えた私に、ホストファミリーは「分からないことがあれば、いつでも聞き返していいんだよ。」と優しく声をかけてくれました。この言葉に安心し「質問ばかりすると迷惑かもしれない」という考えを改め、積極的に質問するようになりました。結果として、ホストファミリーとの絆も深まり、英語力の向上を自分でも実感しました。「聞き取る力が成長したね。」と言ってもらえた時は、本当に嬉しかったです。最終日には、会話の中で笑い合うほどの関係が築けました。最高の日々を届けてくれた彼らに心から感謝しています。彼らが日本を訪れた際には最大限のおもてなしをしたいです。

次に「国際交流」についてです。特に印象に残っているのは、3日目に行われたBBQでの体験です。私たちはソーラン節や書道など、日本の伝統文化をホストファミリーや現地の人々に紹介しました。アメリカと日本の文化は異なりますが、共感できる部分も多く、「表現の違いを超えて通じ合える人々の温もり」を感じました。コロラドに行く前は、思ったことを真正面から伝えるアメリカの文化に対して少し不安を感じていました。しかし、伝え合い、話し合い、ハグや握手で挨拶をする、言葉や行動で表現するアメリカの文化を体験したことで、人々と密に関わることで生まれる温もりに触れ、思いやりの表現方法には様々な形があることに気づきました。

また、現地で富士吉田市の魅力を伝え、コロラドスプリングス市の素晴らしさを肌で感じる中で、両市の共通点にも気づきました。人の温かさや、地域の人々のつながりの深さ、空気が澄んでいるところ、緑が豊かなところ、富士吉田市と似た点を持つコロラドスプリング市が、9日間で大好きな場所になりました。大人になったら、必ずまた訪れたいと思っています。

最後に、この事業に参加できたのは、多くの方々の支えがあったからこそだと思います。支えてくださった全ての方々に心から感謝しています。また、この派遣事業を通して12人の最高の仲間と出会いました。共に笑い合った瞬間は、かけがえのない思い出です。派遣員12人、引率してくださった先生方にも感謝を伝えたいです。この思いを、還元していくために、これから富士吉田市とコロラドスプリングス市の架け橋としての役割を果たしていきたいと思っています。